

# グローバル通信

2011.12 vol. **23**

Ryukoku University  
GLOCAL TSUSHIN

朝夕がめっきり冷え込む季節となり、気がつけば師走も間近な時期を迎えましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。本コースに所属する院生にとっては修士論文の完成に向けて追い込みをかけている時期ですが、くれぐれも体調を崩すことなく最後まで頑張ってください。

さて、今号では、夏休みに行われた「合宿」や「講演会」をはじめ、後期から始まっている「インターンシップ生の現状報告」など、本コースで活躍する院生を中心とする内容となりました。また、前号から引き続き「先生方の自己紹介&アドバイス」や「学びの広場」も継続してお届けいたします。(編集部)

市民の願いに応えられる職員の育成を	1
市民が支える市民社会の実現を目指して	1
コミュニケーション・ワークショップ実践演習が開講されました	2
夏合宿報告	2
公開講演会 (レポート)	2
<先生から>自己紹介とアドバイス	3
インターンシップ特集	3
第3回学びの広場 (10月19日)に参加して	4
東日本大震災被災地ボランティア報告討論会	4
事務局インフォメーション	4



## 市民の願いに応えられる 職員の育成を

竹内 脩 (枚方市長)

枚方市は大阪・京都・奈良の中間に位置し、鉄道や道路の交通網が充実しており、大都市圏へのアクセスの良さからベッドタウンとして、現在では人口41万人と大阪府下4番目の規模となっています。また、市内には6つの特色ある大学や豊富な歴史文化遺産がある一方、生物多様性や緑豊かな里山などの自然環境にも恵まれています。このような特色がある本市では、市民活動が実に盛んです。芸術文化活動やスポーツ活動をはじめ、里山の保全、マルシェ・ひらかたのような地元農産物の普及や新たな名産品の創出にも、市民が積極的に加わり活動されています。

このたび、市長として2期目を迎え、これまで築いてきた市政運営を基礎として、すべての市民が安心して暮らせるまちづくりをさらに進め、市民満足度を高めることで「住みたい・住み続けたいまち」を市民が「誇れるまち」へと成長させていきたいと考えています。

また、本市は平成26年度の中核市移行に向けて取り組みを進めているところです。権限移譲に伴う多くの業務に意欲を持って取り組み、さらには、多様化する市民ニーズにも迅速に対応していくには、行政力をより一層高めていくことが必要であり、職員一人ひとりのさらなる能力向上が求められています。

そうした中で、社会の持続可能な発展に貢献し、地域が抱える課題を解決することができる政策能力の習得を通じて、協働型社会を担う人材の育成に取り組んでこられている貴大学院 NPO 地方行政研究コースには、これまで本市からも多くの職員が参加しており、そこで得た知識と経験は、柔軟な発想や政策形成能力を備えた職員の人材育成に大きな力となっております。

私たち行政の仕事は市民からの信頼があってはじめて成り立つものです。これからも、公正・清潔・健全な市政運営を進めるとともに、貴大学院をはじめ、関係機関との連携を深めながら、市民の願いを市政に反映できる職員の育成を目指してまいります。

## 市民が支える市民社会の 実現を目指して

平尾 剛之

(一般財団法人社会的認証開発推進機構  
専務理事・事務局長)



2009年、特定非営利法人きょうとNPOセンターの戦略的構想の一環として、「京都地域創造基金(現公益財団法人)」が設立されました。その基本的ねらいは、市民等民間の寄付や資金をより有効に活用した「新しいお金の流れ」を生み出し、NPO・市民活動団体を支えるという仕組みをつくらうというものでした。しかし、この仕組みは、NPO等であれば「全てを支援対象とする」というものではなく、組織のレゾンデートル(存在の意義)や活動の成果に立脚し、アカウンタビリティ(組織の相対的な説明責任)・ディスクロージャー(情報開示)等、団体自らの努力と信頼の発信に基づき、支援側の視点を大切にした運用を意図したものでした。そして、その機能を担う新たな組織として、本年2月に設立したのが一般財団法人社会的認証開発推進機構でした。

当機構が構想する機能は、現段階において、社会(協働者・支援者等)が公益活動を行う組織・団体に求められる要素を評価基準として設定し、専門性を有する第三者が訪問調査を行い、客観的な評価と認証、さらに認証情報の公開を行い、「信頼」を可視化・流通することで、より有効な支援につなげていくためにシステム化したものです。

真の公益の担い手としてNPOや市民活動団体等が成長するためには、行政等との連携を図りながらも、それだけに依存しない構造が必要となります。「信頼できるNPOを支援したい、信頼できるNPOと協働したい」という声に応え、「信頼」を社会全体と共有することによる成果をお互いに実感することで、「市民が支える市民社会の実現」を目指していきたいと考えています。

私は、本「NPO・地方行政研究コース」で多くの恩師や学友による学びと絆に支えられ、これまでの実践課題を研究に、さらに研究成果を実践に活かす機会とさせていただきましたことを心から感謝しています。今後も本研究コースが「新しい価値の創造と発信・絆の醸成装置」でありますことに期待するとともに、「共生」の実現を願っています。

## コミュニケーション・ワークショップ 実践演習が開講されました

10月29、30日の二日間でワークショップ形式の授業が行われました。公共政策士に必要な「つなぎ・ひきだす」能力を育てるのが目的です。一日目はファシリテーターの方に入ってもらい話し合いを体験。グループに分かれてファシリテーターがどういう役割を果たしているのか、話の流れなどをお互いに観察しました。二日目は実践です。緊張をときほぐすためのアイスブレイクと話の引き出し役のファシリテートに分かれて、みんなが挑戦しました。個人的にはふりかえりがとても大事だと感じました。時間内にまとめようとして話の流れが止まるのを恐れだしていた自分に気づき、まず「その場を信じる」ことが大事だということを教えてもらいました。

(岩本 陽子 政策学研究科)



## 夏合宿 報告 古き良き「ならまち」の 新しさをさがす

8月6・7日の2日間、チーム政策の合宿でならまちに行ってきました。初日はまちづくりセンターの方からお話を聞いた後、実際に商店街や街並みを歩いてまわって過ごし、二日目には鬼瓦作りを体験したり、街道沿いに並ぶ建物や街並みを通じ歴史的な話も伺うことができました。

古き良き街並みを今も大切にしている「ならまち」には魅力がたくさんあり、長く培われてきた伝統や文化も素晴らしいと感じましたが、本当の魅力は、そうした「良さ」をみんなで残そうとしている人々の努力にあるようにも思えました。もちろんこうした街並みの維持など抱える問題もあるようで、その多くは我々も共に考えるべきことだといえる重要なことでした。



合宿に行ったみんなで意見交換した時間も含め、とても密度が濃く楽しい一泊二日間でした。

(林 遼平 政策学研究科)



## 危機のなかの地方都市 / どのように地域再生のシナリオをつくるのか

講師 井上 正嗣 (宮津市長)

10月1日開催

宮津市長井上正嗣氏の講演を聞かせていただいた中で、宮津市が主体となり、民間企業、大学を巻き込み開発された、世界初の「竹の発電所（農林バイオマス3号機）」については非常に興味深いものでした。これまでの竹の利用方法は籠や箸などの加工品が一般的でしたが、竹を燃料とした発電、ガス燃料やバイオメタノールの生成は、基礎自治体としては先駆的な取組で、地域エネルギー政策の新たな可能性を予感させるものでした。先の東日本大震災に伴う原発事故により、そのあり方を見直されている発電事業において、小規模ながら今後が期待される事案だと思いました。これからの地方都市の再生には、「竹の発電所」から見られるように、既存の考え方にとらわれない発想と産官学民を繋ぎ合わせる「連携」が重要だと再認識させられるものでした。

(大西 英生 政策学研究科)

## 公開講演会 (レポート)

### 存在感のある自治体議会をめざして ~会津若松市議会の取り組み~

10月15日開催

講師 目黒 章三郎 (会津若松市議会 議長)

閉鎖的で議員同士が討議もしない、そして執行機関の追認機関に成り下がっている自治体議会から、議員同士の討議を重視し、住民との対話を重ね、主体的に動く議会へと改革を実践している会津若松市議会。NPO 地方行政コースの授業の一環で、その取り組みを議長の目黒章三郎さんから伺い、地方議会の役割について考え、参加者とのディスカッションを行いました。

会津若松市議会では、議会基本条例をツールに議員間討議による合意形成や、住民との意見交換などを行い、自分たちで論点を整理し、政策を作り上げる取り組みを模索し、実践しています。議会はそもそも住民自治の根幹であり、討議の場として存在しているのではないのでしょうか。その存在意義を改めて再確認する機会を会津若松市議会の取り組みから学びました。

(小林 美智子 政策学研究科)



## 自己紹介とアドバイス

## 「方法」からの発想

堀尾 正靱 (政策学部教授)

「方法」へのこだわりは、発想を支えます。デカルトの『方法叙説』から啓示を受け、19歳の私は、人生の根拠や正しいことは簡単にはわからない、人生の規律は、それを探っていく「学問」の方法でしかなく、また気分よく学問するためには「遊び」が重要だ、と割り切ります。3年になって、西田哲学から輩出した<sup>かけはし</sup>梯 明秀の『資本論への私の歩み』を読みます。研究は「下向」過程、論文を書くのは「上向」過程だと彼は言います。論文では、研究時の紆余曲折を忘れ、本質（下側）から発し、現象（上側）をすっきり描いて見せる—それが上向法だ、と。そして翌年、武谷三男の「三段階論」（『弁証法の諸問題』所収）に出会います。〈現象から本質に下降するとき、必ず「構造的段階」（武谷では「実体的段階」）を通る〉がその要点。

後になって、私の研究論文には、いつの間にか熱心な外国人のファンがいるのに気がきました。



## テーマ設定は「この現実を変えねば」という問題意識から

脇田 滋 (法学部教授)

論文は「テーマ設定」が肝心です。「この現実を変えなければならない」という強い問題意識があれば、テーマ発見は簡単です。

私は労働法・社会保障法が研究分野で、いまは「非正規雇用撤廃」をテーマにしています。2009年の政権交代まで、政府は意図的に「非正規雇用拡大」政策を推進してきたので、当然ながら政府系の統計・調査は非正規雇用の問題点を指摘しません。官庁統計・調査に安易に依拠しては、非正規雇用はテーマになりません。

そこで、私は派遣労働者からネットでメール相談を受け、酷い相談事例を数千件蓄積することで、彼ら・彼女らの無権利状況を可視化できました。「鳥の目」ではなく「虫の目」でこそ、見えない現実が見えたのです。

経験と直感を大切に、独自の手法を編み出しながら意味のあるテーマを追究して下さい。

## 修了生から一言アドバイス

修論執筆の最大の眼目は「理論を検証する」ことです。その方法は私の場合、数理モデルでした。今仮説に対する実証方法の妥当性で悩んでいるのであれば、トリミングによって写真が生きるように、方法から仮説にさかのぼり再設定することを奨めます。私見：短いセンテンスの集合で文章を構成すれば推敲し易いです。接続詞で長くするのは簡単ですから。（西川 嘉邦 甲賀市役所／2007年度修了生）

「自分の書きたいことから離れる」

修論に取り組む姿勢として教えて頂いたことで、一番印象に残っています。

とても勇気がいることですが、「社会で今何が必要とされているか」という客観的な視点に立って考える上で、大切なことだと思います。（塩田 健悟 きょうと NPO センター／2010年度修了生）

## インターンシップ 特集

8月から亀岡市役所夢ビジョン推進課でお世話になっています。夢ビジョン推進課では、セーフコミュニティを推進しており、事故やけがというものは未然に防げるという理念のもと科学的データに基づいて、市民や大学等と協働で予防活動を進めるというものです。

私は、外傷データの集計、各対策委員会の補助、啓発活動等に携わっています。セーフコミュニティ活動では、多くの人に関わっており、高齢者や乳幼児など各当事者の目線にたつて、亀岡市をより安全・安心なまちにするために様々な視点から意見が出され、活発な議論が行われています。

私もセーフコミュニティ再認証に向けて少しでも貢献できたらと思います。不慣れで、足手まといなところもありますが、職員の皆さんには優しく丁寧に指導していただき、有意義な時間を過ごさせてもらっています。（芝本 和孝 政策学研究科）



私は京都のNPO法人「環境市民」でインターンをさせていただいています。NPOには生命線ともいえる広報力を養うとともに、環境NPOの内幕や実態を知ることをインターンの目的としています。

主に担当しているのは、環境市民の発行誌「みどりのニュースレター」の原稿の執筆・依頼・編集とウェブサイトの運用です。特に原稿を外部的の方に依頼する際には、書いていただきたい内容と趣旨を具体的に、的確に伝えなければならないので難しさを感じることもあります。また、自分で執筆する際にも、正確に、わかりやすく表現するのに頭を抱えることも少なくありません。しかし、できあがったニュースレターを手にとったとき、知人から「見たよ」と言われたとき、喜びとやりがいを強く感じます。こうしたやりがいがあるNPOで働く人を支えているのだろうと日々感じています。

（石田 浩基 政策学研究科）

## 第3回学びの広場（10月19日）に参加して

講師：藤野 正弘（京都NPOセンター理事／京都災害ボランティア支援センター長）

テーマ：災害支援におけるNPOと行政の役割と課題

Ustreamによって横浜から参加しました。震災直後に京都で支援センターを立ち上げ、活動を開始された藤野さんからお話を伺いました。

まず、今回の地震の特徴は、巨大・広域・複合といわれますように、①岩手から千葉の沿岸域まで津波が押し寄せ、街ごと破壊し、②陸路が寸断され、支援物資や人員の供給が困難、③地震や津波に加え、「原発」がメルトダウンを起こすなど、阪神淡路大震災と決定的に違い、支援や復興を遅らせ、妨げている要因となっている状況が報告されました。

それでも、阪神淡路や中越地震を踏まえ、①被災直後は

ボランティアの現地入りはやめ、自衛隊や警察などの専門家に任せる②支援物資は大口を優先し、個人の支援物資の送付は極力避けるなど、過去の経験の蓄積が活かされているとのことでした。

発表後の議論では、行政機能が麻痺する中で、被災地域の「避難マネジメント」をいかに機動力を持って実行していくか、また行政職員の災害時の初動から避難所解説や運営、さらに「支援」の受け入れ、支援ネットワークを形成する重要性などが議論されました。

（鳥居 良寛 横浜市役所／2009年度修了生）

## 東日本大震災被災地ボランティア報告討論会

10月7日（金）、龍谷大学深草学舎にて、「東日本大震災報告討論会」が開催されました。これは、仮設住宅で被災者支援を行った学生6名が、ボランティア活動から見えた課題の情報共有を目的に企画実施したものです。

テーマは「仮設住宅での暮らしの課題」や「学生ボランティアができること」が焦点に当てられ、①仮設住宅の地区ごとに設備の充実さ、被災者の心のゆとりが違うこと、②コミュニティ形成の重要性、③学生は「若さ」・「柔軟さ」・「繋がり」が強みであること等が討論されました。また、終了時刻が延長になるほど、会場からの質問意見が途切れず、関心の高さが分かりました。

私は被災地での活動はなく、討論

した学生の飾らない一言一言がどれも気づきで、気持ちが伝わる討論会でした。これからも、自らできる支援の形で被災者支援、被災地復興を考え行いましょう。

（上野 敏寛 政策学研究科）



### 事務局インフォメーション

#### ●NPO・地方行政研究コース協定先推薦入試スケジュール

※事前審査は終了しました。

本選考出願期間：2011年11月7日（月）～14日（月）

試験日：11月26日（土）

合格発表日：12月9日（金）

#### ●先進的地域政策研究講演会スケジュール

※事前予約不要ですので、興味のある方はどうぞお越しください。

日時：12月3日（土）13:30～15:00

講師：黄 世輝（雲林科技大学教授）

テーマ：「台湾に学ぶ震災復興計画

～阪神淡路－台湾－中越－東北をつなぐコミュニティ復興の試み～」

会場：21号館401教室

なお、今年度も2月中旬に「大学院生自主シンポジウム」及び、NPO・地方行政研究コースネットワーク交流会を企画しています。詳細が決まり次第、ホームページ、メーリングリスト等でお知らせいたします。

### NPO・地方行政研究コース ニュースレター『グローバル通信』通巻22号 2011年12月

発行／龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース  
連絡先／政策学部教務課  
TEL：075-645-2285 FAX：075-645-2101

H P／[http://www.ryukoku.ac.jp/gs\\_npo/](http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/)  
編集／大矢野修、松浦さと子、土山希美枝（編集補助）榎並ゆかり、岩本陽子、鳥部聖人  
印刷／株式会社 田中プリント